

追悼 故渡邊 昭 前総長



No.628スカウティング
2005/9

追悼 故渡邊 昭 前総長

日本連盟長老（前総長）渡邊 昭先生が、去る7月23日未明に永眠されました。享年103でした。

今月号は、長年にわたり日本のスカウティングを先導された前総長の追悼特集をお届けします。



■「故 渡邊 昭前総長お別れの会」

7月31日（日）、東京プリンスホテル・パークタワーにおいて、渡邊前総長との「お別れの会」がとりおこなわれました。

ご遺族やスカウト関係者およそ1,000人が集い、前総長に最後のお別れをしました。

<御供花>

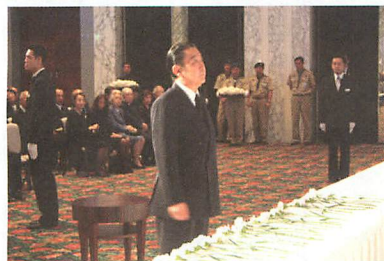
天皇后両陛下
皇太子同妃両殿下
秋篠宮同妃両殿下
清子内親王殿下
常陸宮同妃両殿下
三笠宮同妃両殿下
スウェーデン国王 カール16世グスタフ陛下



社団法人霞会館 久邇邦昭理事長



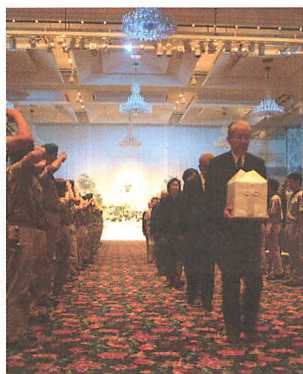
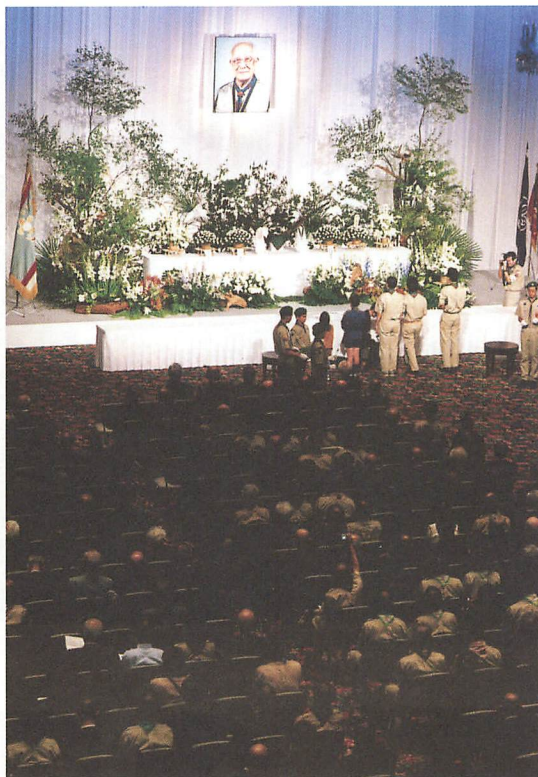
ご遺族挨拶 渡邊 允 様(宮内庁 侍従長)



橋本元首相 (ボーイスカウト振興国会議員連盟会長)



会の司会を務めた上島常務理事



■お別れの言葉



日本連盟 佐波正一理事長

謹んで、故 渡邊 昭 前総長の御霊に、全国20万のスカウト、および関係者を代表してお別れの言葉を申し上げます。

渡邊さんに最後にお目にかかりましたのは、昨年の12月24日のことでした。車椅子に座っておられましたが、お元気で、最近の連盟の動きなどのご報告を聞いていただきました。

暑い季節の中、ご高齢でもありますので、ご案内申し上げておりました所、去る23日は本当に安らかに、眠るようにこの世を去られました。いかにまれなご長寿を全うされたとは申せ、誠に痛恨の極みでございます。

渡邊さんがボーイスカウト日本連盟の総長に就任されましたのは、昭和49年のことでしたが、我が国のボーイスカウト運動そのものに参加されるようになったのは、昭和9年のことと伺っております。その年の暮れにはメルボルンで開催の国際ジャンボリーに日本を代表して参加され、そこでボーイスカウト運動の創始者であるベーデン・パウエル卿御夫妻に会われるという、またとない機会を得られました。

以来、絶えることなく、我が国のボーイスカウト運動に献身されました。

総長に就任されましたのは、ちょうどその前年の昭和48年に、日本連盟が法人組織として新しく全国的な歩みを踏み出したばかりの時でありました。爾来30年余の長きにわたって我が国のスカウト運動の中心として指導にあたられ、ジャンボリーを始め、各種の会合にほとんど欠かさずに参加され、全国20万のスカウトは勿論のこと、世界中のスカウト関係者の敬愛を一身に集められ、ボーイスカウト世界機構からは「ブロンズウルフ章」、ボーイスカウト日本連盟の最高の功労章である「きじ章」、さらに勲2等瑞宝章を受章するなど、多くの榮譽を受けられました。

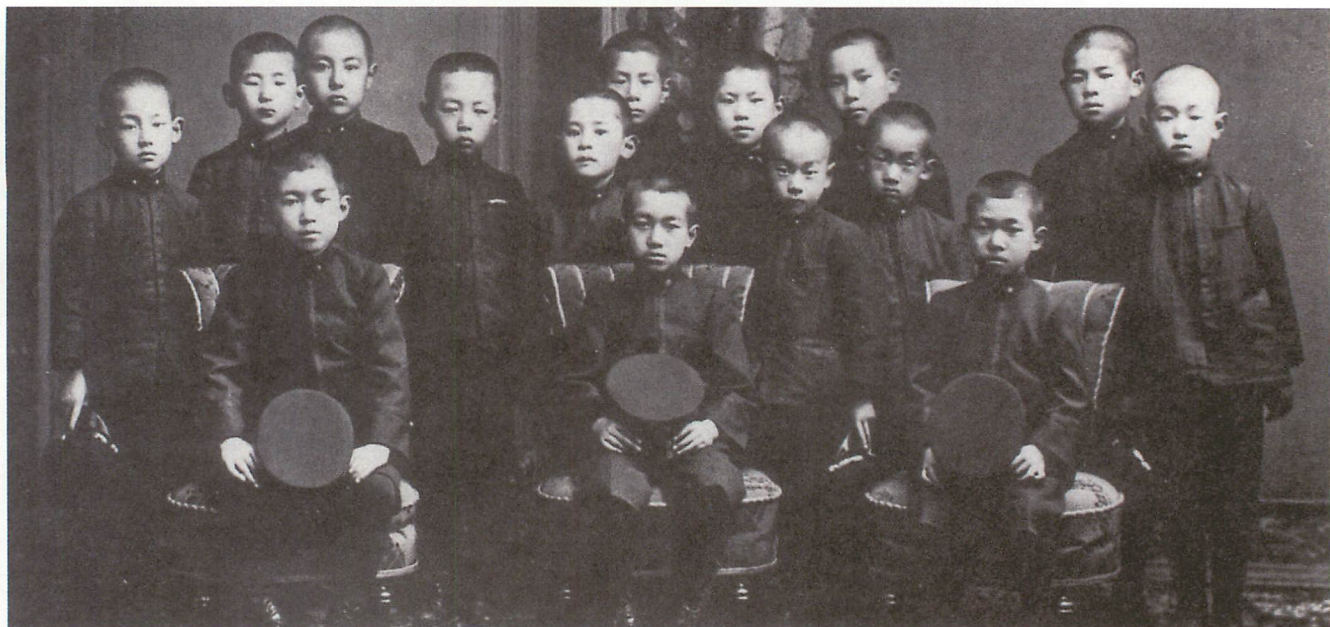
渡邊総長、長い間本当にありがとうございました。あなたが心から愛され、育まれたボーイスカウト運動は、私ども後輩がしっかりと引き継いで参ります。

今後はどうぞ天上にあって、この運動の行く末を見守ってください。

総長の残された偉大なご功績を偲び、長年にわたるご指導を深く感謝申し上げ、お別れの言葉といたします。



渡邊前総長の思い出



1908年頃、学習院初等科にて。前列左から、秩父宮様、昭和天皇、三笠宮様。後方立列右から4人目が渡邊前総長。



肖像撮影。胸には世界スカウト機構から1977年に贈られた「ブロンズウルフ章」。この写真は前総長が大変気に入られ、以後様々なところで使用された。「お別れ会」での遺影にもなった。



1997年、本誌新春号の座談会にて。ローバースカウトたちと楽しく語らう。



2000年、本誌新春号座談会にて、ベンチャー・ローバースカウトたちと。



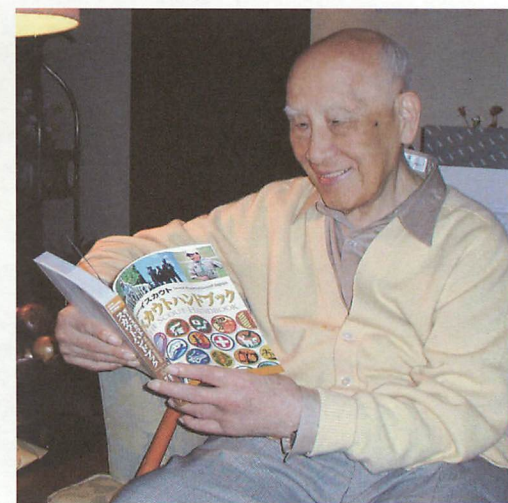
1993年、富士スカウト顕彰にて。スカウトと歓談。



1997年、日本連盟75周年中央記念式典のレセプションにて。皇太子殿下、雅子妃殿下、野口宇宙飛行士と歓談。



1999年、本誌対談でC.W.ニコル氏と。



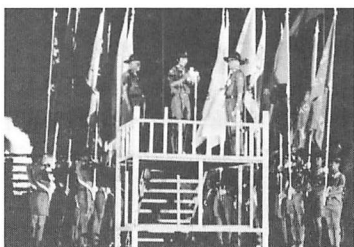
2002年、ご自宅にて。新しいスカウトハンドブックを見て。
(写真提供: 神奈川・横浜第62団 団委員長 矢島巖氏)



1970年、5NJ会場にて。当時の皇太子殿下と美智子妃殿下に会場説明をする前総長(当時、総コミッショナー)。



1974年、日本連盟総長に就任されたときの前総長。



1974年、6NJ会場にて。日本のチーフスカウトとして全スカウトから祝福のエールを受ける。



1978年、7NJ会場にて。



1983年、4NA会場にて。スカウトたちと祭りを楽しめる。

さようなら 渡邊 前総長

前総長がお亡くなりになり、各所から本誌に追悼文のご寄稿をいただきましたのでご紹介します。
(渡邊前総長への敬称はそれぞれご寄稿いただいた方の原文のままをご紹介します。)

●常に平常心をモットーにされた故渡邊前総長

日本連盟常務理事 上島真一郎

故渡邊 昭 前総長は、総長職を離れ長老になって表舞台から去られたあとも、ご健在である限り日本のスカウト運動を推進する者にとって偉大な総長として精神的支えとなり、スカウト運動の象徴的存在として無言の励ましを送り続けてくださいました。突然の訃報は、余りにも痛恨の極みで私は言葉を失っています。前総長と身近に接する機会をいただいた者の一人として思い出の断片をご紹介しますと思います。

前総長が95歳を過ぎられたころ、東京銀座ロータリークラブの例会にお招きして講和をしていただいたことがありました。テーマは「ボーイスカウト運動の歴史について」でしたが、何十年前の史実を語られる前総長の鮮明な記憶力と凜とした声の響きに一同驚きました。会員の一人が「渡邊さんは100歳近い高齢なのにこのようにお元気でられるのは、何か秘訣があるのですか」と尋ねました。前総長は少し間を置いて「私には特にこれといった健康法はありません。強いていえば、常に平常心を保つことを心掛けていることかもしれませんね」と言われたのです。忘れ得ぬお言葉でした。

総長時代、幾度となく渡邊家に参上し前総長からご助言を

いただく機会がありましたが、前総長がいかに合理的な精神を持たれ、それを実践しておられるかをこの目で見ることはできませんでした。前総長のお宅を訪ねた方は皆さん気づかれることですが、玄関内や廊下、応接間の電気は人がいないときは消してあるのです。玄関先のドアの隙間より中をのぞくと、真っ暗な状態で灯りは消してあります。前総長が出て見ると応接間に案内され、そのときにスタンドの電気がつけられます。前総長は「話をするのにそんなに明るくする必要はないでしょう」と笑っておられました。言われてみれば、その通り。「無駄は一切しない」ことを常とし家庭内でも実践されているお姿は、まさにスカウト精神の実践者でした。

また前総長は実に記憶力がよく、100歳を過ぎても頭脳は明晰で英字紙を読まれ世界の情勢にもよく通じておられました。日本のスカウト運動の将来を案じ、「もっと若い有能な指導者を登用して組織を強固にすることだ。世界に立ち遅れてはいけない」と私どもを常々叱咤激励されました。

前総長はもうこの世にはおられません。ボーイスカウトの道を極められた前総長の精神を、私たちはお互いに心の中に持ち続け、今の悲しみを乗り越えて日本のスカウト運動の発展に努力することが、「永遠のスカウト」故渡邊昭先生に報いる道であると考えています。

●総長の思い出

日本連盟理事 杉原 正(元総コミッショナー)

7月25日の朝、総長宅を訪問してお別れをさせていただきました。お花に囲まれたお姿はお元気なときそのままであり、眠っておられるような安らかな顔でありました。

渡邊総長からはじめてご教示いただいたのは、実修所のスタッフのときで35年前に遡ります。当時、総長は総コミッショナーであられました。以後各種の訓練コース、また私がディレクターや総コミッショナー在任中に総長から学びましたことは、一貫して「スカウト運動とは何か、スカウト運動は誰のためか」ということです。総長の視線が常にスカウトや若者に向けられていたことがとても印象深く思い出されます。

また、皇太子殿下が英国に留学される前、南蔵王で開催された第8回日本ジャンボリーで1泊キャンプをされることが決まりました折、総長から私を接伴隊長にとご推薦をいただき、殿下にキャンプを通じてスカウト運動をご理解いただくことを申し渡されました。そのとき「遠慮なく思い通りやりなさい」と励ましてくださいました。そして1977年、年若くして中央審議会議員に委嘱されたとき、総長が私におっしゃった「若年寄になってはいけない。そして進取、常に改革を目指しなさい」という言葉は、今でも重く受け止めております。

総長ご逝去は、天空に輝く道標である北極星を失った、まさに「巨星墜つ」の感慨があります。

これまでの渡邊総長のご教示を深く想い、これからのスカウト運動に関わる決意をしつつ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

●渡邊昭前総長を偲んで

日本連盟理事 鈴木 国夫(前総コミッショナー)

渡邊昭前総長が総長として務められた最後の2年間を、幸運にも私は総コミッショナーとしての立場においてご指導をいただいた。

平成13年5月愛媛県松山市で開催された年次全国会議——前総長が出席された最後の全国会議であった——において、はからずも総コミッショナーに選任されたが、今後いかに取り組んでいったらよいのか基本的考え方について、総長にまずお伺いしようと考えた。2週間後に開催された理事会に先立つ時間を割いていただき、考えをペーパーにまとめ聴いていただいた。そのとき、「今後は会議等には出席できないのでよろしく」とのこと伺い大変なショックを覚えた。

以降、折にふれてお宅にお邪魔し、連盟の動きなどを報告した。いつも前総長は「どうかね?」と切り出された。主語はないのである。それは言わずもがなで、前総長は加盟員の減少傾向をいたく心配されておられたのでお尋ねの意図は明白であったのだ。前総長に安心していただける報告を一刻も早くできることを念じ、これからも努力していきたいと思う。

●総長を悼む

東京・小金井第2団 団委員 本田 尚士
(元日本連盟広報委員長)

渡邊昭ボーイスカウト日本連盟前総長が7月23日103歳で逝去された。渡邊総長は学習院初等科で、昭和天皇のご学友

であった。また一人明治の男子がこの世を去り、昭和は遠くなりにけりの感慨を深くするものである。総長は厳しさとスマートさを兼ね備えた自由人であった。ボーイスカウトの日本連盟総会の席上で指導者表彰の際には、90歳を超えた高齢にもかかわらず、数百人の受章者の一人ひとりの首に褒章綬をかけ握手をしながら、直立の姿勢を崩されないのが常であった。

私が広報委員長当時スカウトの間に増えだしたピアス・茶髪に違和感を持って、この問題に対する「アンケート」を実施したことがあった。対象者はスカウト関係者ばかりであったから当然、反対意見の回答が圧倒的なことを期待してのアンケートであった。明治生まれの古い環境に育たれた総長が、当然賛意を表してくださることを計算にいれてご相談したところ、渡邊総長は「本田さん、無理に結論を出させない方が良いでしょう。こんな問題は自然に落ち着くところに落ち着くものですから」とおっしゃって賛成なさらなかったことが印象的である。

昇天された総長が目下益々必要性の向上した、日本のスカウト運動を温かい眼差しで見守って下さることを信じて、今後の世界を担う子どもたちのために精進したい。

●渡邊前総長を偲びて

滋賀連盟 先達 佐々木 義璋(滋賀第1団団委員長)

去る7月23日、渡邊総長のご逝去の報に接し、つねづね親しくお言葉をかけてくださりそのお人柄をお慕い申し上げておりましたのに、ひとしお寂しさがこみあげてまいります。謹んで哀悼の誠を捧げるものであります。

前総長に親しくしていただくようになったのは、昭和46年に県コミッショナーに就任して以来です。以後県コミ会議、名誉会議等の席で、いつも「滋賀の方は如何ですか」「高校生の学校生活は」「教育委員会の仕事は」等と声をかけていただき、その都度現況をお話しさせていただきました。

特に滋賀第1団の50周年のときにはわざわざメッセージをいただきました。

「世の中は絶えず動いている。人間は知恵を働かせ、少しでもみんなの生活が幸せになるよう努力しなければならない。もちろんスカウティングもそのような努力の一つだ。」さらに「日本人は真の意味での国際人にならなければ十分な活動ができない。スカウティングの国際性を考え、スカウトのためにその機会を準備すること」と励ましていただきました。

やがて当団も60周年を迎えます。総長の言葉に対し、さらにスカウティングの発展を期してまいりたいと思います。

●渡邊 昭^おさんの念いを

神奈川・横浜第72団 団委員 小池 喜一

8月4日朝、ホームページの写真で渡邊昭総長にお会いしました。ユニフォーム姿に記章を胸にかけられた肖像写真でした。私に「ご苦労様」と笑みを浮かべながら話しかけている、そんな再現場面のような気がしました。

IYY国際青年年(1985年)アジア太平洋障害スカウト招聘計画のレセプションの会場で、総長は私のところに杯を持ってきて「ご苦労様」と労いの言葉と笑顔をくださいました。ホームページの総長はそのときの笑顔のままでした。

このレセプションは六本木で行われたのですが、「どのようにして来られましたか」と尋ねた私に、総長は「徒歩で来ました」と気さくにおっしゃったのでした。

立食型のレセプションで杯を持ったときの姿勢の良さ、心もまた凛々しくスマートな総長が、私の眼には今も映って

います。

今他界された渡邊昭総長の念いするとき、スカウトソング「永遠のスカウト」を謡い、洋で我らの「チーフスカウト」、和の「ヤタガラススカウト」を贈り、詠いたいと思います。

あらためて前総長の教えに触れてみる

渡邊昭前総長・総長時代の主な記述、談話など

■スカウティング誌

1974:昭和49年	8月号	ひとこと 総長に就任して
1975:昭和50年	1月号	年頭のことば 新しいスカウト運動
	5月号	石坂総裁を偲んで:強い意志と謙虚な態度
	6月号	ボーイスカウトおよびシニアスカウトの進歩課程改訂(案)の実施について 一総長告示一
1976:昭和51年	1月号	ひとこと 年頭所感
1977:昭和52年	1月号	年頭のことば 新年の反省
	9月号	オレーブ・レディ・ベーデン・パウエルをしのんで:最も偉大な婦人
1978:昭和53年	1月号	年頭のことば キメ細かな交流を
	7月号	ひとこと 創刊300号に寄せて
	11月号	故植村甲午郎総裁を追悼することば:スカウト運動に深いご関心
1979:昭和54年	1月号	年頭のことば 国際感覚について
1980:昭和55年	1月号	年頭のことば 日本人は働き過ぎか
1981:昭和56年	1月号	ひとこと これからの道
1982:昭和57年	1月号	年頭のことば 記念すべき年(日本連盟創立60周年)
1983:昭和58年	1月号	年頭のことば ベーデン・パウエルの道
	2月号	“1月24日という日について”についての疑問
1984:昭和59年	1月号	年頭のことば 教育偶感
1985:昭和60年	1月号	年頭のことば 心を動かすもの
1986:昭和61年	1月号	年頭のことば 年頭に思う
	11月号	ひとこと 400号に寄す
1987:昭和62年	1月号	年頭のことば 世界の平和は相互理解から
1988:昭和63年	1月号	年頭のことば 明るい年に
	6月号	村田総コミッショナーをしのんで
	“	飯田進歩委員長をしのんで
1989:平成元年	1月号	年頭のことば 偶感
	6月号	ひとこと スカウト・スカウティングの衣がえに当たって
1990:平成2年	1月号	移りゆく世界に
	4月号	松平頼明先達を悼む
1991:平成3年	1月号	備えよ常に
	3月号	平和運動としてのスカウト活動
	10月号	本田宗一郎理事を悼む
1992:平成4年	1月号	年頭のことば 新しい年を迎えて
1993:平成5年	1月号	年頭のことば 鷺の国の物語
1994:平成6年	1月号	年頭のことば 運動と組織について
1995:平成7年	1月号	年頭のことば 世界平和とスカウト運動
	7月号	ボーイスカウト運動へ女子を迎え入れるにあたって
1996:平成8年	1月号	新春インタビュー 渡邊総長に聞く
1997:平成9年	1月号	新春座談会 総長&若手指導者・RS ボーイスカウトの未来を語る
	4月号	日本連盟創立75周年に寄せて
1998:平成10年	1月号	年頭のことば 勇ましく前進しよう
	2月号	井深前理事長を偲ぶ
1999:平成11年	1月号	年頭のことば 国際活動と英語
	“	新春対談 C.W.ニコル氏と
	8月号	対談 多摩大学学長グレゴリー・クラーク氏と
2000:平成12年	1月号	スカウティングは何故変わったのか
	“	ミレニアム対談 渡邊昭総長&ヤングジェネレーション スカウトよ世界を語れ!未来を語れ!!
2001:平成13年	1月号	21世紀の始めに私たちは何をすべきか
	“	長期戦略計画策定にあたって
	5月号	討論について
	9月号	B-Pの考え方
2002:平成14年	1月号	年頭のごあいさつ ジャンボリーを契機に世界平和を
2003:平成15年	1月号	年頭のごあいさつ 世界の人たちとの信頼関係を築こう
		(各種会議、大会での挨拶等は記載していません。)

■書籍

スカウティング・フォア・ボーイズ(現行版)
「序文」
「スカウティング・フォア・ボーイズ成立の背景」
「あとがき」

■渡邊 昭 前総長 主な経歴

1901(明治34)年12月25日生まれ

2005(平成17)年7月23日逝去 享年103

<主な職歴>

昭和14年4月	国務大臣秘書官歴任
昭和18年6月	貴族院議員(21年4月退任)
昭和20年10月	司法参与官高等官二等(21年2月退任)
昭和22年11月	大和醸造・三楽酒造役員歴任
昭和45年3月	社団法人尚友倶楽部理事(57年3月退任)
昭和57年3月	社団法人尚友倶楽部理事長(平成12年3月退任)
昭和57年3月	社団法人自然公園園美化管理財団評議員(平成12年5月退任)

<主なスカウト歴>

昭和3年5月	東京連合少年団理事
昭和5年7月	少年団日本連盟指導者実修所少年部(鶴ヶ峯道場)および同幼年部(筑波道場)修了
昭和9年5月	(財)少年団日本連盟審議員(11年5月退任)
昭和9年11月	(財)少年団日本連盟代表としてオーストラリア・ジャンボリーに派遣
昭和11年5月	(財)少年団日本連盟理事(16年1月退任)
昭和13年5月2日	文部省より欧州各国の社会教育状況の調査を囑託され、青少年ドイツ派遣団参与として渡欧
昭和21年2月	ボーイスカウトクラブを結成、ボーイスカウト運動再建に参画(以下BSと表記)
昭和26年5月	(財)BS日本連盟相談役(27年6月退任)
昭和27年6月	(財)BS日本連盟理事(36年5月退任)
昭和32年5月	BS日本連盟より功労章「たか章」受章
昭和34年4月	BS東京連盟理事(39年3月退任)
昭和36年5月	BS日本連盟顧問(42年5月退任)
昭和42年5月	BS日本連盟総コミッショナー(49年5月退任)
昭和42年10月	BS極東地域スカウト委員会委員(45年10月退任)
昭和45年10月	アジア太平洋地域スカウト委員会委員(49年6月退任)
昭和46年8月	第13回世界ジャンボリー(日本・富士山麓)を運営本部長として統括する
昭和48年5月	(財)ボーイスカウト日本連盟理事(平成15年5月退任)
昭和48年7月	ボーイスカウト世界委員会委員(56年8月退任)
昭和49年5月	(財)ボーイスカウト日本連盟総長(平成15年5月退任)
昭和51年9月	世界スカウト財団理事(55年10月退任)
昭和55年10月	世界スカウト財団副理事長(58年11月退任)
平成15年5月	財団法人ボーイスカウト日本連盟長老(現在に至る)

<受章歴>

昭和19年3月	従三位
昭和44年11月	藍綬褒章
昭和50年4月	勲二等瑞宝章
昭和52年7月	世界スカウト機構より「ブロンズウルフ章」を受章
昭和53年5月	財団法人ボーイスカウト日本連盟より功労章「きじ章」を受章

第22回世界スカウトジャンボリー開催国 間もなく投票!

日本招致プロモーション活動の足跡

9月5日より9日までチュニジアにて開催される世界スカウト会議において、2011年の第22回世界スカウトジャンボリー開催地を決める投票が日本時間の8日夜に行われます。

この大会の日本招致を実現するべく、これまで日本連盟が取り組んできた招致プロモーション活動の全容をここに紹介します。



■招致委員会の発足

平成16年10月28日、平成16年度第2回理事会において、「第22回世界スカウトジャンボリー(以下22WSJ)の誘致立候補について」協議され、立候補の方針が決まり、立候補のための準備業務の組織立ち上げについて理事長と常務理事に一任され、その後招致委員会が発足。委員会内に候補地選定部会、招致企画部会の2つの部会が設けられ、それぞれに招致活動の準備を進めた。

■候補地の選定

22WSJ日本招致にあたり、北海道、茨城、石川、静岡、山口、大分の各県連盟が16年11月までに招致会場に立候補した。前出の候補地選定部会を中心に11月から本年1月にかけて各会場候補地の踏査を実施。その後2月18日に開催された候補地選定部会での審議結果報告を同25日常任理事会が受け、日本招致会場が「静岡県、富士宮市」に決定された。これを受け、具体的な立候補の提案書が作成され、WOSM(世界スカウト機構)へ提出された。

プロモーション活動展開

2005年

●3月16日(水) 於東京・新高輪プリンスホテル
ジャン・カサニューWSB(世界スカウト事務局) 副事務総長来日
最終提案書を手渡すとともに、今後のプロモーションについて意見交換。



新藤招致企画部会長他委員4人、杉山静岡県連盟理事長、事務局4人が出席。

●4月上旬

22WSJ招致パンフレット・CD等の完成
4月17日の世界スカウト委員会会場で配布できるように英仏文パンフレットを作成。静岡県の英文パンフレットは5月上旬、CDは6月上旬に完成。

●4月16日(土)～4月18日(月)

世界スカウト委員会 於イタリア・ローマ
各立候補国連盟が必要要件を満たしているか審査が行われた。
鈴木世界スカウト委員、上島常務理事、事務局1人が出席。



●5月9日(月)～5月10日(火)

WOSM加盟員拡大に関する会合 於スイス・ジュネーブ
世界24か国連盟の事務総長等による加盟員拡大に関する会合に出席し、プロモーションを行う。



鈴木世界スカウト委員、中野22WSJ日本招致委員、若山事務局長が出席。

●5月20日(金)～5月22日(日)

インターアメリカ地域スカウト委員会 於ブラジル・クリチバ
インターアメリカ地域スカウト委員が出席する会議に参加し、パンフレットの配布とプレゼンテーションを行う。
鈴木世界スカウト委員、中野国際副委員長、事務局佐藤国際グループ長が出席。



●5月25日(水)～5月27日(金)

アメリカ連盟総会 於アメリカ・ダラス
関係国連盟からも役員の参加があるので、パンフレット配布などのプロモーションを行う。

鈴木世界スカウト委員、西村イベント委員長、有野広報委員長、小林事務局次長、茂木スカウト用品グループ長が出席。

●6月6日(月)

22WSJ招致パンフレット・CD等の送付
WOSM加盟各国スカウト連盟へ招致パンフレット・CD・ワッペン等を郵送し、日本の立候補をPRした。



●6月6日(月)～6月8日(水)

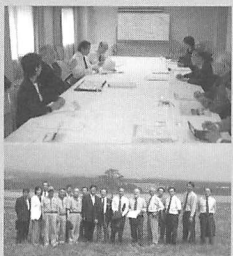
WSPU (世界スカウト国会議員連合) 常任理事会 於スウェーデン・ストックホルム
候補国連盟であるスウェーデン、オーストラリアからの参加あり。日本は斉藤斗志二代議士 (ボーイスカウト振興国会議員連盟事務総長) より22WSJ招致パンフレット・CD等を配布する。
斉藤斗志二代議士、鈴木世界スカウト委員、若山事務局長が出席。

●6月8日(水)～6月9日(木)

イギリス連盟訪問 於イギリス・ロンドン
イギリス連盟を訪問し、斉藤代議士より22WSJ招致パンフレット・CD等を配布する。
斉藤斗志二代議士、鈴木世界スカウト委員、若山事務局長が訪問。

●6月12日(日)～6月17日(金)

ISGF(国際スカウト・ガイドフェローシップ)総会 於ノルウェー・リレハンメル
22WSJ招致パンフレット・CD等を配布する。
鈴木世界スカウト委員が出席。



●6月24日(金)～6月27日(月)

ジャン・カサニューWSB副事務総長来日 於東京・品川プリンスホテル
最終提案書を手渡すとともに、今後のプロモーションについて意見交換を行う。
鈴木世界スカウト委員、招致委員6人、事務局4人が出席。

●7月19日(火)～7月21日(木)

インターアメリカ地域事務局との調整 於チリ・サンチャゴ
鈴木世界スカウト委員、若山事務局長が訪問。

●7月28日(木)～7月29日(金)

25APRジャンボリー派遣団長会議・APR関係委員会 於タイ・チョンブリ県他
タイでAPR各国から参加する派遣団長会議が開催されるので、プロモーションを行う。
鈴木世界スカウト委員、檀上国際委員長、中野国際副委員長、小林事務局次長、佐藤国際グループ長が出席。

●7月29日(金)～8月10日(水)

ユーロジャム 於イギリス・ハイランズパーク
2007年開催の21WSJのプレジャンボリーとして開催されたこの大会において、日本派遣団より各国派遣団長に22WSJ招致パンフレット・CD等を配布する。
日本派遣団スカウト26人、指導者4人が参加。



●7月29日(金)～8月3日(水)

ユーロジャム・スタディツアー 於イギリス・ハイランズパーク
21WSJ派遣予定連盟指導者によるプレジャンボリー視察ツアーにおいて、各国連盟からの訪問指導者に22WSJ招致パンフレット・CD等を配布する。
鈴木世界スカウト委員、22WSJ日本招致委員4人、静岡県より6人、21WSJ派遣実行委員1人、事務局3人が参加。

●8月4日(木)

ユーラシア地域事務局との調整 於ウクライナ・ヤルタ
鈴木世界スカウト委員、小林事務局次長が訪問。



●8月16日(火)～8月17日(水)

アフリカ地域事務局との調整 於ケニア・ナイロビ
鈴木世界スカウト委員、若山事務局長が訪問。

●8月18日(木)～8月19日(金)

アラブ地域事務局との調整 於エジプト・カイロ
鈴木世界スカウト委員、若山事務局長が訪問。

●8月29日(月)～9月1日(木)

第9回世界スカウトユースフォーラム 於チュニジア・チュニス郊外
青年代表によるパンフレット配布等のプロモーション。
日本から青年5人が実施予定。

●9月5日(月)～9月9日(金)

第37回世界スカウト会議 於チュニジア・チュニス郊外
展示・パンフレット配布・ワッペン配布等によるプロモーションおよび投票直前のプレゼンテーション。
佐波理事長他、代表5人、青年代表5人、オブザーバー約25人が実施予定。

◆◆◆まとめ◆◆◆

世界最大の青少年の集いともいえる世界スカウトジャンボリー。2011年の日本開催招致をめざし、招致委員会他多くの関係者のプロモーション活動が精力的に展開されました。

いよいよ今月、8日夜にはその結果が出ることになります。

日本連盟のホームページでも開票速報を掲載しますので、ぜひご注目ください。

<http://scout.or.jp/j/info/pr/sokuho22wsj.html>

●22WSJ日本招致委員会候補地選定部会(役職当時)

部会長: 上島真一郎常務理事
委員: 鈴木国夫総コミッショナー
堀江建治中央審議会議長
村瀬達明評議員
野村正直評議員
逢坂伸一中央審議会議員
富岡賢一中央審議会議員
鈴木令子中央審議会議員

●22WSJ日本招致委員会招致企画部会(役職当時)

部会長: 新藤信夫評議員
委員: 上島真一郎常務理事
久野 桂理事
鈴木国夫総コミッショナー
鈴木武道評議員
西村 稔評議員
逢坂伸一中央審議会議員
村田禎章中央審議会議員
山田龍雄中央審議会議員
篠田常生組織・コミュニケーション担当コミッショナー
小町國市国際担当コミッショナー
小栗宏次中央審議会議員
鈴木令子中央審議会議員
檀上善夫国際委員
中野まり国際委員
若山裕司事務局長

■22WSJ日本招致委員会

委員長: 佐波正一理事長
委員長代行: 上島真一郎常務理事
副委員長: 新藤信夫評議員
委員: 伊藤智是教育本部コミッショナー
杉山博通評議員
鈴木国夫理事
鈴木武道評議員
檀上善夫国際委員長
中野 充国際委員
中野まり国際副委員長
若山裕司事務局長
小林孝之助事務局次長

ステップアップ100運動

Q&A集

「ステップアップ100運動の第1年度フォローアップ要領」は平成17年5月にスカウト用品カタログ等とともにすべての団に配付しました。また、「第1年度フォローアップ要領」は現在も日本連盟のホームページに掲載中です。この資料も併せてご参照ください。 <http://www.scout.or.jp/j/info/pr/100nen.html>
ぜひ各団、各隊で100周年めざして頑張っていきましょう!

<申請年度について>

Q1: 「前年度」「新年度」とは、いつからいつまでのことですか？
また、隊の上進が12月のときは、最初の年のホップ賞の申請はいつになりますか？

A: 「団」の場合の「年度」は教育規定(2-15)で定める期間である4月1日から翌年3月31日までの期間です。

各隊の場合は、上進時期を基本に考えます。以下、隊の場合について説明します。

隊の「新年度」とは、平成17年4月～平成18年3月までの間で各隊で設定している上進の月から1年間とします。上進が12月のときは「新年度」は平成17年12月から平成18年11月までとなり、「前年度」とは平成16年12月～平成17年11月となります(ステップアップ100運動第1年度フォローアップ要領5頁の記載内容の読み替え)。

次に上進時期が9月の場合の「前年度」と「新年度」の区分をお示します。上進時期が12月のときはこれを読み替えてください。

例：上進時期が9月の場合

上進 前年度 (H16.9～H17.8)								上進 新年度 (H17.9～H18.8)			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

以下の説明で、隊に関する「前年度」「新年度」はこの説明でお示する期間になります。

<顕彰の対象>

Q2: 受賞の対象者は？

A: 平成17年度の顕彰対象者は次の通りです

(1)ビーバー隊

前年度から新年度にかけて実際に上進したスカウトおよび前年度に隊に所属していたスカウトおよび指導者。

ビーバー隊が顕彰基準を達成したときは、

①前年度のビーバースカウト(達成時ビーバースカウトで新年度にカブスカウト隊に上進のスカウトを含む)

②前年度ビーバー隊指導者

※新年度に入隊したスカウト、指導者は対象とならない。「今年頑張りました」ということになる。

(2)カブ隊・ボーイ隊・ベンチャー隊

前年度、当該隊に所属していたスカウトおよび指導者。

たとえば、カブ隊が顕彰基準を達成したときは、前年度のカブスカウト(達成時カブスカウトで新年度にボーイスカウト隊に上進のスカウトを含む)、前年度カブ隊指導者が対象者となる。

※新年度に入隊したスカウト、指導者は対象とならない。ボーイ隊、ベンチャー隊も同様とする。

(3)ローバー隊

実際に取り組んだローバースカウト(個人)と指導にあたった指導者を顕彰する。

(4)団

団が達成した場合は、達成時(登録上の<平成16年度>)の団委員を顕彰する。

Q3: カブ・ボーイ・ベンチャーの対象者として、「年度途中における退団者は年度当初在籍数に含めますが、転出者は年度当初から在籍していなかったものとします。なお、転入による移籍者や新規加入者の数を含めるか否かは各隊の裁量によります。」と「第1年度フォローアップ要領」にあります。年度途中で辞めたスカウトの数を年度当初在籍数に含めるのは、辞めないように努力せよとの主旨はわかりますが、転出者は年度当初から在籍していなかったものとします、という場合の記載の方法についてはどのようにしたらよいのでしょうか。

A: 転出者が生じた場合は、年度末の状況を記載のときに、基礎数となる年度当初欄に記載の人数から当該転出者数をマイナス修正してください。

Q4: 前の質問にもある「対象者」の記載内容のうち、「転入による移籍者や新規加入者の数を含めるか否かは各隊の裁量によります。」とは？

A: 年度の早い時期ならば、転入による移籍者や新規加入者があつた場合は是非含めていただきたいし、年度も終わり近くであれば年度いっぱい活動しているスカウトと一律に考えるのは難しい面も

ありますので、各隊で良い方向に検討して決めてください。

<報告書の記載方法>

Q5: ボーイ隊、ベンチャー隊の記載方法をもう少し詳しく教えてください。

A: ステップアップ100運動フォローアップ要領の8～9頁に記載例をお示ししますので、参考にしてご記入ください。

Q6: ベンチャー隊の進級区分として「ベンチャーバッジ」「ベンチャー章」「プロジェクトアワード1こ、技能章3こ」「富士章」と設定されています。「ベンチャー章」と「富士章」の間に設定された「プロジェクトアワード1こ、技能章3こ」がありますが、たとえば「ベンチャー章」取得者でプロジェクトアワードが0こだが技能章4この場合は？プロジェクトアワードが2こだが技能章が2この場合は？

A: ステップ②の「ベンチャー章」と、③の「プロジェクトアワード1こ、技能章3こ」の間にいるスカウトの場合はすべて②の欄に入ります。したがって、Q6の場合はいずれも②のベンチャー章となります。

ステップ③と、④富士章の間にいるスカウトの場合(富士章取得者以外)は、すべて③の欄に区分されます。

ベンチャーの「ステップ」

①ベンチャーバッジ
②ベンチャー章
③プロジェクトアワード1こ、技能章3こ
④富士章

Q7: ローバー隊の報告書の記載について、スカウト一人ひとりが異なった活動、異なった目標になる場合、報告書にはどのように報告内容を記載したらよいのでしょうか。

A: 一人ひとりすべての該当者の内容を記載してください。書ききれない場合は、別紙で一覧にして添付してください。

Q8: ボーイ隊の顕彰において、「年度当初在籍スカウト全員が、1つ以上進級すること」とあるが、もう少し詳しく教えてください。

A: 全員が1つ進級することが望ましいですが、仮に1人進級できなかったとしても、他の人が2つ進級すれば隊として100%となり達成できたことになります。

Q9: カブ隊で、すべてのチャレンジ章を取得し、一部で、いわゆる“スーパーカブ”とも呼ばれるスカウトの評価は？

A: チャレンジ章をたくさん取得したことによる隊への貢献ということにはなりますが、ベンチャー隊における富士章のように評価することはできません。

Q10: 平成18年度以降のことになりますが、今後隊と個人の顕彰がずれたとき、どう対処したらよいですか？

A: 顕彰は、達成した隊・団がそれぞれの組織ごとに受賞します。その受賞に貢献した(すなわち、そのときに在籍していた)スカウト・指導者が当該バッジを着用します。

具体例-Q1

1年目BVS隊＝ホップ賞取得、CS隊＝取得できなかった場合で、2年目BVS隊からCS隊に上進したスカウトがCS隊でホップ賞取得に該当。

BVS隊から上進したスカウトはすでにBVSのときにホップ賞を取得しているがCS隊ではどの賞を授与されるのですか。

具体例-A1

スカウトはビーバースカウト隊でのホップ賞とカブスカウト隊でのホップ賞の2このホップ賞着用となります。同じホップ賞ですが、その貢献内容が異なるということです。

具体例-Q2

1年目にビーバースカウト隊が取得した時は途中入隊で(あるいは入隊していなくて)ホップ賞をもらっていないスカウトが、2年目に隊としてステップ賞を取得した時は、この途中入隊した(あるいは入隊していなかった)スカウトはホップ賞を授与されることになりますか？

具体例-A2

当該年度に所属する隊員全員が同じ賞を付けます。従ってステップ賞の着用となります。ホップ賞ではありません。

Q11: 年度途中で目標を達成したときに申請可能ですか？

ビーバースカウト隊以外の隊は、年度途中で達成されるケースも出てきます。それを達成時点で申請することは可能ですか？

A: 団からの申請は定められた期日に団委員長が年1回一括取りまとめて団担当コミッショナーに提出します。

9月上進の場合、9月末に団委員長が「記録兼報告書」をまとめて、団担当コミッショナーに提出します。団担当コミッショナーは地区コミッショナーに、地区コミッショナーは県連盟コミッショナーに提出します。

<賞の着用期間>

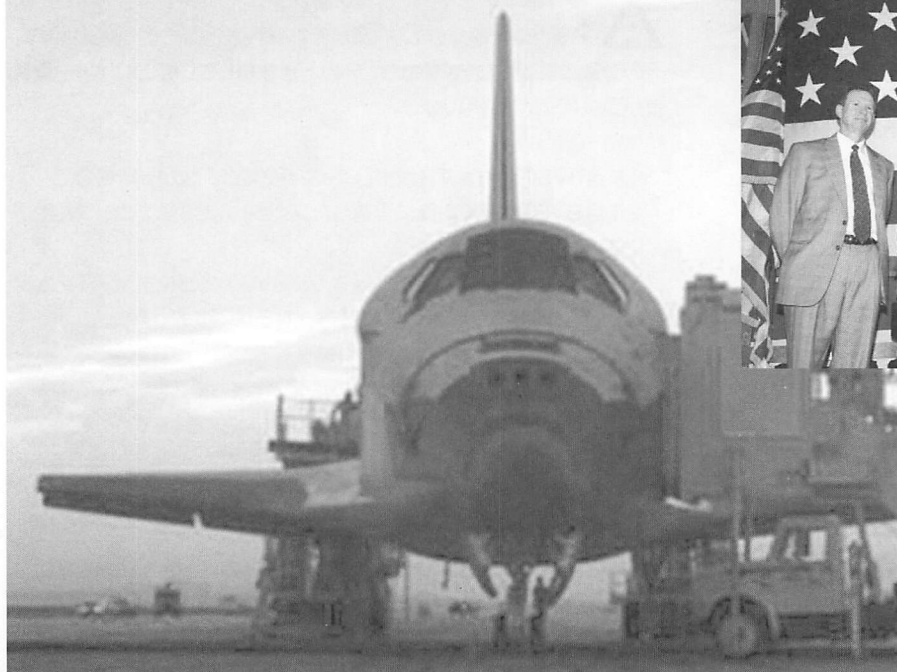
Q12: 9月上進の場合、賞が届くのが1月～3月頃になり、上進までの着用期間が約5か月位で短い。着用期間を長くすることの対応は考えられませんか？

A: 日本連盟では申請が届きましたら県連盟を通じて速やかに賞が各団に届くようにしてまいります。また、この顕彰は2007年度までの期間で実施するものですが、2007年度以降の対応についても今後検討してまいります。

ステップアップ100運動関連記事

2005年3月号8～10頁を併せてご覧ください。

お帰りなさい 野口宇宙飛行士



提供: NASA

日本時間8月9日午後9時11分(米国東部夏時間8月9日午前8時11分)、13日と21時間32分のフライトを終え、カリフォルニア州エドワーズ空軍基地内NASAドライデン飛行研究センターに無事着陸したスペースシャトル・ディスカバリー。期間中の野口宇宙飛行士の様々な活躍、そして「子どもたちに夢を」と野口さんが送ってくれたメッセージは、皆さん各種報道でご存知のことと思います。

日本連盟のホームページでは、「事務局ニュース号外」としてお伝えしていましたが、8月6日、国際宇宙ステーションにいる野口さんから、所属団の神奈川・茅ヶ崎第2団を通じて、全国のスカウト仲間にとメッセージを頂戴しました。改めて紹介します。

提供: NASA

TOPIC

クルーの胸に茅ヶ崎のワッペンが

メディアでも紹介されていましたが、野口さんと今回のミッションの仲間たちの宇宙服などの胸に、なんと野口さんの地元茅ヶ崎の海のシンボルでもある「烏帽子岩」をデザインしたワッペンがつけられていました。これは、野口さんのリクエストを受けて、茅ヶ崎第2団の見上団委員長、脇本ビーバー隊長、江南地区の若野さん(平塚第6団・団委員長)らが製作して

贈ったもの。デザインは見上団委員長のご友人で茅ヶ崎在住のデザイナーの岩崎さん。今回のミッションのクルーの皆さんにも記念にと一人ひとりのネーム入りで製作して送ったところ、フライト直前の記者会見でクルー全員がブルーのツナギの胸に縫い付けて登場。送った側もびっくりという次第。帰還会見時の野口さんの胸にも、このワッペンがつけられていました。



提供: NASA

野口宇宙飛行士からのメッセージ

ボーイスカウトの皆様

宇宙飛行士の野口 聡一です。

我々のスペースシャトルSTS-114ミッションを応援していただきありがとうございました。

長い間一緒に訓練してきた仲間と力を合わせて、難しい任務を成功させることができ、とてもうれしく思っています。

チームワークが重要なのは、ボーイスカウトでも宇宙でも同じです。そなえよつねにの精神で、皆さんもボーイスカウト活動を楽しんでください。日本に戻った時に皆さんにお話するのを楽しみにしています。

2005年8月6日

国際宇宙ステーションにて
宇宙飛行士 野口 聡一

原点をたどるシリーズ ②-1

ウッドクラフトとは

中村 知 1966(昭和41)年連載

このシリーズはスカウティングの原点に繋がる空気のようなものを、比較的新しい指導者の皆さんにも感じていただこうということで、本誌のバックナンバーから価値あると思われる記事をそのまま再録・紹介しようというものです。ページの都合で回の区切りが当時のものと異なることがあります。

ダン・ベアードについて

この稿の予定では、ここでKephartのウッドクラフトについて書くつもりであったが、はからずも、シートンと協働したダン・ベアードの事蹟について調べていた中間報告ができたので、このほうをさきにする。

ダン・ベアードの本名はDaniel Carter Beardである。これをDan Beardというのは略称なのだが実は愛称でもある。それほど彼は、全米の少年から敬愛された。有名な雑誌“Boys' Life”は彼によって創刊されたといってもよい。彼は、その雑誌に、すばらしい動物のさし絵をのせ、かつ、パイオニア精神をもりあげる文を書いた。しんからのBoy-manだったからである。

アメリカ発行の百科全書“Encyclopedia Americana”の1963年版のVol.3の380ページによると――

米国人にして画家、著作家そしてボーイスカウトのリーダーだと記している。

●1850年6月21日、オハイオのシンシナティーに生まれた。

●1941年6月11日、ニューヨーク州サファーンで死す。行年91歳。

●画家James Henry Beardの息子。

●ケンタッキー州カービントンにて教育をうけてからニューヨーク市Art Students Leagueで画を学ぶ。(1880~1884)

●1900年には著述家ならびに画家として全米的に名をあげる。

●有名な著書は、“American Boys' Handy Book”(1882年)

●数種の全国的雑誌に執筆したり油絵をかく。

Mark Twainの小説のさし絵も。

●1893~1900年、婦人学校のデザイン科という雑誌のさし絵家となる。

●世界最初の動物画家の組織を作り会長になるよう望まれた。

●1905年“Sons of Daniel Boone”という名称の、少年パイオニア団をお

こす。これは“Fort”(とりで)と名づけるクラブ組織によるもので全米に普及した。

●1910年2月8日、ボーイスカウト米国連盟を創立し、National Scout Commissioner(総コミッショナー)となり1941年死ぬまで奉仕した。(これは60歳から91歳までというわけ)

●全米のスカウトから“Uncle Dan”とよばれた。Golden Eagle章をもらったのは、この人だけである。

●アラスカのマッキンレー山の山頂がMount Beardと命名されたのは、この人の名誉を永久に残すためである。

●著書として

“American Boys' Book of Wild Animals”(1921)

“Wisdom of the Woods”(1927)

“American Boys' Book of Camplore and Woodcraft”(1936)

自叙伝として1939年に書いた

“Hardly a Man Is now Alive”がある。

以上は百科全書からの抜き書きである。

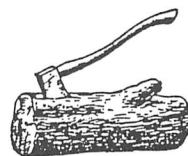
私は終戦直後のある時期、英国の技能章の翻訳をしたことがあるが、開拓章だったか何かの解説書の巻末にダン・ベアードのことが載っていた。その原本も訳稿も盗難にあって今手元にはないが、私の記憶はある一点で今でも鮮明である。それは――1861~1865年に南北戦争のとき、南部の司令官は南軍の軍旗の図柄を募集した。その懸賞募集にめでたく当選した人物がいる。その受賞式は盛大だったが、名を呼ばれた瞬間、満場の群衆は、立ちあがって、どんな人物が当選したのだろうか、と首を伸ばしたが、いっこうにその人物は見えない。ただ、小さきみに、コトコトコトという靴音ばかりがひびいた。そのうちその人物は高い壇上にのぼって、ぴょこんと、おじぎをした。なんだ、コドモか!と、叫ぶ声とともに嵐のごとき拍手喝采がおこった。その人物こそ、11歳の少年、ダ

ン・ベアードなのだ――と。

彼は天性のデザイナーであり画家だったわけ。

私は、1929年パークンヘッドでの、第3回世界ジャンボリーで、1人の、ひょうかな、たくましいリーダーが目の前を、すたすたとあるいているのをみとめた。年齢は40歳ぐらいにみえた。すると、かん高い子どもの声で「アンクルベアードだ」「ダン・ベアードだ」とひびいたかと思うと、あちこちから、スカウトたちがとんできてその男に、実に、いうにいけない敬愛の手をふるのに、私は見とれてしまった。あとで年表をしらべるとそのとき、彼は79歳だったことになる!

― つづく



■本稿の一部訂正について

横浜第79団団委員長 富澤準治様から、7月号「ウッドクラフトとは」について訂正依頼のお手紙をいただきました。ありがとうございます。ここに抜粋して紹介させていただきます。

『…7月号にも、当時のままで掲載されておりますが、Horace KephartのCamping and Woodcraftに掲載されております内容について、中村先生は、すべてVocation Camperとして記載しております。先生は当時視力が大変落ちておられたとのことで、それゆえの読み間違い、あるいは写し間違いだと思うのですが、原文はvocation(天職、生業)ではなくvacation(バケーション)となっています。職業という意味とバケーションという意味では著しい違いがあり、かつバケーションとして捕らえた時、自づからキャンプの意味が理解できる内容となります。…』

※来月以降も本文では当時のまま「vocation」と掲載しますが、注釈をつける予定です。

14NJ事前訓練シリーズ 珠洲への道

①炊事燃料「薪」を考える

このコーナーでは、来夏開催される第14回日本ジャンボリー(14NJ)に向けて、各参加隊などで準備訓練などを進めていただきたい事項について、月変わりの話題でご紹介していきます。

第1回は、14NJの炊事燃料となる「薪」について、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

■14NJで配給される薪

クヌギ・コナラ・ナラ、などの間伐材が写真のような状態で配給される予定です。巻末カラー頁で紹介している今夏開催された「環日本海大会」での評判は以下のような様子でした。

【好評:大多数】

- そのまま燃やせる大きさで扱いやすい。
→スカウトの薪割りがほとんど不要で思ったより事故が少なかった。
- 良く乾いていて火付きが良い。勢い良く燃える。
→その分雨天時に水を吸いそうで怖い。薪の雨対策が重要になりそうだ。
- サイト周りに枯草のようなものも多く、火付けとして利用できそうだ。

【不評:ごく一部】

- 割ろうと思うとかなり手ごわく、地面が砂地でもあるので苦勞する。
→硬い薪を割る方法について要研究・事前訓練。砂地への「埋まり」対策も。
- 見た感じより極端に重い湿ったものもあり、乾燥不十分。



■カマドの工夫

このような「薪」での炊事を前提に、各サイトでは様々なカマドが工夫されていました。オーソドックスな立ちカマドはもちろん、レンガを組んだもの、ドラ



ム缶を切ったもの、一斗缶などを利用したもの、市販の薪ストーブ利用、独自で鉄板などを加工したもの等々。いくつかを写真で紹介しますので、工夫のポイントなど参考にしてみてください。



最も力が入っていたのは、岐阜の某隊。多様な鍋釜に対応可能な5段階ゴトクから、全てのパーツがぴったりと折りたたみ収



納できる全体のサイズ、そして組み立てたときの鍋置き場等のアイデア。まさに隊炊事の理解と溶接などの技術が両立してこそその力作でした。



力作

編集部が最も注目したのは金沢の某隊。スチール家具用の部品を活用して、鍋釜にジャストフィットのカマドを組み立てたというアイデア。鍋釜含めカマドの下に置かれた木箱にセットで収納するというのもナイスです。熱効率では前出の岐阜某隊カマドに

アイデア



は及ばないでしょうが、これなら特別な技能がなくても、低予算でアイデア拝借できそうです。

これら「薪」による炊事の研究や実地訓練もさることながら、キャンプの燃料として「薪」を利用することが環境へのインパクトなどの面からどうなのか、といった考察もぜひスカウトたちと行っていただければと思います。本稿でもまたそうした視点での資料を提供できるよう努めます。

～ 菩薩行とスカウト ～

宗教関係代表者会議構成員 土山 和雅

ベーデン-パウエル卿最後のメッセージ「スカウト指導者に…」の中に「健全にして幸福なる社会を構成するために狭量にして利己的・政治的なものを除去し、犠牲的・人類愛に奉仕してきた」とあり、最後に「指導者たちは、神の命に従い世界平和のために偉大なる奉仕をしているのだという自覚をもって努力されたい」と結ばれています。

このメッセージの日本的実践行動として仏教（お釈迦さまの教え）の「布施」の心を考えてみたいと思います。

「布施」には、物をほどこす「財施」、教えをほどこす「法施」、おそれを取りさる「無畏施」の三種があります。そしてこの三種すべてに惜しむ心、賤しい心、お返しを期待する心があってはならないとされます。まさにボランティア活動の真髄とも考えられます。

特に私たちスカウト指導者としての日常活動の指針としていきたい「布施」に、心がけと身体だけで実践できる「無財の七施」があります。

1、眼施（あたたかいまなざし）

目は口ほどにものを言うともいわれます。おだやかな目つきを心掛けたいものです。

2、和顔（悦色）施（にこやかな表情）

3、言辞施（やさしいことば）

この二つの布施から和顔愛語のことばが広く使われています。

4、身施（精一杯のおこない）

まさに奉仕することにつきます。

5、心施（いつくしみ深いこころ）

多数の生命に守られている私の生命すべての生命の尊さに気づくことです。

6、庄座施（席をゆする）

シルバーシートでさえ若者がドカッと座り、高齢の方々が遠慮する社会は異常だと思います。

7、房舎施（気持良く迎え入れる）

拙寺の本堂は建立以来鍵をかけていませんが最近どうしたものかと思案しています。

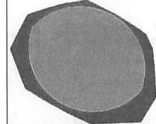
七施の実践いかがでしょう。“言うは易し行うは難し”かもしれません。一人ひとりが少し心掛けるだけで世の中が違ってくと思いますか。

指導者も少年たちもスカウティングをするものとして精進してみてはいかがでしょうか。



おすすめの冊子

中道を歩む



こんな生き方・考え方もある。人生がもっと楽しくなる。仏教の教えがキラリ……。

ひろさちや
仏教的生き方のすすめ……

大慈悲の心は右でもなく左でもない中道の歩み方といわれます。一人ひとりの人間を大切にしていくなスカウトの活動はまさに中道の歩みの実践でもありましょう。「いい加減」でなく「良い加減」の精神でゆったりと生きましょう。

『中道を歩む

仏教的生き方のすすめ … I』

著者：ひろさちや

出版：すずき出版

価格：1,200円（税別）

National Scout Moot 2005 スカウトムート2005開催!



8月19日(金)夕刻、「スカウトムート2005」が日本連盟山中野営場において開幕となりました。

この大会は、全国の青年男女の加盟員が、キャンプ生活を通じて相互理解を図り、多くの体験を通してスカウティングに対する一層の理解を深めるとともに国際的な視野と社会感覚を養い、人生、平和、貢献について考える機会となるよう開催されたもので、青年男女を中心としたメンバーにより大会の準備・運営が行われました。

日本連盟からは大会長：清水利英教育本部副コミッショナー他副大会長として西村稔イベント委員会委員長、逢坂伸一ユース特別委員会委員長らが参画。青年たちによる大会を見守りました。

印刷日程の都合で、今月号は開会式周辺の写真のみの紹介となります。大会の詳しい報告は10月号をお待ちください。

大会に参加した皆さんへ

この大会で感じたこと、大会で撮った楽しい写真など、皆さんのレポートをお待ちしています。20頁に記載している宛先まで、ぜひ報告をお寄せください。

スカウトムート2005

- ・テーマ 『開拓』
- ・会期 2005年8月19日(金)～24日(水)(5泊6日)
- ・会場 ボーイスカウト日本連盟 山中野営場
- ・参加者 ボーイスカウト 23県連盟 87人、ガールスカウト 10県支部 28人、外国派遣団として台湾から5人の計120人(開会時の人数)

INFORMATION

SEPTEMBER 2005

日本連盟からのお知らせ

■年次全国大会企画推進チーム会議(第8回)の開催(報告)

日時: 7月10日(日) 12:00~16:00

場所: 東京・八重洲倶楽部

出席: 鈴木チーム責任者他 7人

主な議題: 1. 年次全国大会の評価・反省について
2. 今後の全国大会の在り方について

■スカウトムート2005実行委員会(第5回)の開催(報告)

日時: 7月10日(日) 10:00~19:00

場所: 東京・ボーイスカウト会館

出席: 和田(薫)委員長他 6人、清水大会長、
逢坂副大会長

主な議題: 1. 参加者申込状況について
2. 大会の運営について
3. 各プログラムについて
4. ユースフォーラムについて
5. 報告書の作成について 他

■スカウト運動推進委員会(第5回)の開催(報告)

日時: 7月25日(月) 12:00~13:30

場所: 東京・八重洲倶楽部

出席: 和田(伸幸)委員長他 5人

協議内容: 教育本部および理事会へのスカウト運動推進についての分担事項の策定について

■傷害共済運営委員会(第2回)の開催(報告)

日時: 7月29日(金) 15:00~17:45

場所: 東京・八重洲倶楽部

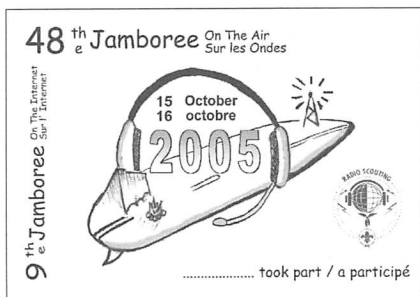
出席: 岡谷委員長他 11人

議題: 1. 共済加入状況、加入証の発行について
2. 給付金の支払いについて
3. 「保険業法等の一部を改正する法律」について
4. 初年度実施の問題と次年度に向けての対応について

■第48回ジャンボリー オン ジ エア

今年のJOTAは、10月の第3週末の15日(土)~16日(日)です。

同時期にJamboree On The Internetも開催されます。



参加証

●野外活動でアマチュア無線を使用する際には、電波法を厳守して運用をお願いします。

・アマチュア無線技士の免許証とアマチュア無線局免許状(コールサインの取得)を持参。

・アマチュア無線局免許状に記載されている周波数と無線機を使用。

・社団(クラブ)局を開局している団は、開局申請書に名簿を記載していますので、変更があった場合は、すみやかに変更届を提出することが定められています。

ご支援ありがとうございます

*維持会員(敬称略) スカウト運動を財政面からご支援いただいている個人・法人会員のの方々です。

2005年6月度

【青森】	【神奈川】	【和歌山】
鶴谷 義則	西村 哲夫	山崎 真昭
今井 則三	【東京】	【大阪】
黒沢 憲一郎	B S 板橋 6	三島 克巳
奥崎 平	原田 正吾	林 晴次
奥寺 一廣	小町 國市	間野 智之
葛西 大晃	【新潟】	【鳥取】
照井 大親	杉山 晃	中尾 徳明
音喜多 平男	斉藤 真憲	中尾 喬一
【宮城】	高橋 剛	【広島】
安達 清守	本間 守	土手 譲
松原 健二	藤田 義夫	【高知】
【秋田】	上村 光司	斎野 一誠
田口 貞徳	【静岡】	原池 洋治
藤原 隆	熊切 策郎	【長崎】
【茨城】	滝島 三郎	重信 利光
山田 隆士	【愛知】	【宮崎】
【群馬】	小泉 重雄	有田 利之
河内 正美	【京都】	【日本】
【埼玉】	赤井 啓二	荒尾 雅也
高橋 昭次郎	中井 敬二	河合楽器製作所
【千葉】	荒尾 雅也	出 露 会 館
森屋 啓	【奈良】	本 田 誠
西出 功	滝元 弘武	
江原 哲夫	小城 優	
最首 守雄	牛本 逸己	
	中西 和信	

ネパール王国パラス皇太子殿下へのきじ章贈呈

2005年日本国際博覧会(愛知万博)会場内で開催される、ネパール王国のナショナルデーに出席されるため来日した、ネパール王国パラス皇太子殿下へ7月12日(火)都内において「きじ章」を贈呈しました。我が国はネパール王国と友好関係を有しており、殿下はボーイスカウト運動にも深くご理解を示されていることから、「きじ章」の贈呈となりました。



団・地区・都道府県連盟だより

宮城

☒ 仙台地区ビーバーまつり

仙台地区

仙台地区のビーバースカウトが一同に会し交流を図るとともに、地域の子どもたちに対してスカウト活動を体験する場を提供し、ともに楽しんでもらうために、ビーバーまつりを行いました。

期日 平成17年度5月29日(日)

会場 仙台市西公園

テーマ「地球一周の旅、仲間とあそべ! あそべ!

友だちつくるう!!」

ビーバーまつりのあさ、ぼくは、どきどきわくわくしました。ビーバーまつりはね、みんなとなかよくなれるおまつりなんですよ。

ほかのだんのたいちょうや友だちともいっぱいいっぱいあそびました。かみひこうきやロケットをつくってとばしたり、ゆみやでまとあてもしました。マツケンサンバもおどりました。やきマシュマロは、口の中であろけてあまくてとってもおいしかったですよ。うすちゃ色にじょうずにやけました。

ぼくは、たくさんの人といっしょにあそべてすごかったのしかったです。うれしかったです。もっともっと、なかよしのわをひろげろぞ。

仙台第30団ビーバー隊 宅島修司



神奈川

☒ しょうなんビーバー忍者大集合

湘南地区ユースプログラムチーム

湘南地区では毎年1回、ビーバースカウトだけのお祭り“ビーバーフェスティバル”を催しています。今年は5月8日の日曜日、鎌倉の中心部梶原にある野村総研跡地に“ちびっこ忍者の大冒険”と銘打ってビーバー忍者が大挙して押し寄せました。

大師匠から密書の巻物を預かり、それぞれ組に分かれお友だち忍者と力を合わせいろいろな忍者の術に挑戦し、大師匠の待っている最終目的地まで届けました。

団から飛び出し、他団のスカウトと行動。最初はとまどいながら、それでもすぐ同じビーバースカウト同士打ち解け仲良くなりました。お互いに協力し合って忍者の術、ゲームを楽しみ密書を届けるといふ大役を果たし、充実した一日を過ごしました。

今回他団と交流したスカウトたちは、今回のビーバーフェスティバルや地区ラリー、団を超えた地区行事等での再会を約束し、さらなる友情の輪を広げたものと思われます。そしてこの“友情の輪”はカブ隊やボーイ隊になっても続いていって欲しいです。



和歌山

☐ BSAスカウター・ジェームスさんと交歓

和歌山第21団

アメリカ・コロラド州コロラドスプリングス・パイクスピーク地方連盟第518隊スカウターのジェームスさんが、沖縄出張の帰りに関西空港で途中降機されて和歌山に数日間滞在され、カブ隊集会でスカウトたちにインディアンの話やゲームの指導などをされ交歓しました。またBSAの誓いの壁掛け(タペストリー)をプレゼントしてくださいました。1997年に団委員長が渡米の帰途、飛行機の隣席でジェームスさんと知り合い、以来交流を続けています。今後はスカウト同士の交流ができれば、と願っています。



愛知

◇ 関ヶ原の地に巨大絵画

国府宮スカウト育成会 30周年記念イベント

国府宮スカウト育成会理事 北村克史

国府宮スカウト育成会(会長 竹内正憲国府宮神社宮司)はさくら満開の4月16・17の両日、岐阜県・関ヶ原青少年自然の家で育成会創立30周年の記念行事を、ボーイスカウト稲沢第6団・ガールスカウト愛知県第77団のスカウトや保護者、関係者140人余が参加し盛大に開催しました。式典では竹内育成会会長より長年にわたり、育成会に奉仕された関係者に感謝状が贈られました。

16日夜には関ヶ原の地に神様を招き、スカウト自ら神主、巫女を務め、創立30周年奉告祭(神事)

を斎行。引き続きキャンプファイアを楽しみました。

両日も晴天に恵まれ、青空の下で参加者は国府宮のお社とスカウト活動を、縦1.8m横9mのキャンパスに描いた記念絵画「杜の中のスカウト活動」を創り上げ、今後のスカウト活動の発展を誓いました。



新潟

☐ 水質調査

新潟第15団団委員長 田村良裕

6月5日は、BS隊、CS隊それぞれ異なった水系での調査をしました。

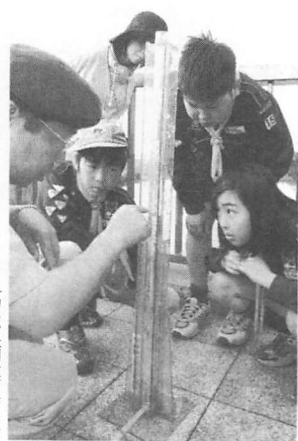
CS隊は徒歩で、BS隊は自転車を使って8か所にわたって調査を実施しました。なお、BS隊ではさらに発展的調査として、7月30日～31日にかけて信濃川河口から約40キロ地点にある、通称「白玉の滝」を源流と見て、河口までの水質と生物に関する調査を実施する予定にしています。



汚染の現実 びつくり

世界環境デーで
ボーイスカウト
鳥屋野湯を調査

新潟市南地区区石山地 境で1に合わせ同市の鳥屋野湯で環境調査を行った。調査は市民グループが中心で、鳥屋野湯の水をくみ、水質検査を行う参加者も多かった。鳥屋野湯の水をくみ、水質検査を行う参加者も多かった。鳥屋野湯の水をくみ、水質検査を行う参加者も多かった。



新潟日報 (2005.6.10)

鳥屋野湯の水をくみ、水質検査を行う参加者も多かった。鳥屋野湯の水をくみ、水質検査を行う参加者も多かった。鳥屋野湯の水をくみ、水質検査を行う参加者も多かった。

◇ 第16回オーストラリア ローバー スカウトムート派遣

大阪第18団ローバー隊 前平三喜

派遣日程:平成16年12月30日～平成17年1月7日
派遣場所:オーストラリア(シドニー、メルボルン、タスマニア)

参加の動機:高校のとき、1年間クラスにタスマニア出身の留学生がいて、タスマニアに興味を持ち、いつか行ってみたいと思っていた。日本連盟のホームページでタスマニアの文字を発見。絶対行きたいと思って、派遣に応募した。

目的

- ①オーストラリアのローバー活動を見て、日本での自分の活動に生かす。
- ②世界遺産区域であるタスマニアで、現地の人々の自然に対する姿勢を知り、自分ができる自然保護について考える。
- ③友だちを作る!!!

目標

- ①大学で学んでいる分野でもある、オーストラリアの文化や文化のグローバル化についてインタビューする。
- ②名刺を120枚もっていき、半分は配る。

目的に対する評価

- ・ローバー一人ひとりが自己責任の下で動いているようで、リーダーはそれに干渉し過ぎない程度にサポートしているようで、理想的なスカウティングだと思った。
- ・タスマニアは人口も少なく、大きな町もなくエクスペディションも町から遠く離れていたため、現地の人々と接することが少なかった。
- ・世界スカウトムートとはまた違ったムートが体験できた。友だちももちろんできたが、オーストラリア英語(に限らず英語力)が難しく、さらに、スラングや若者言葉も多く、コミュニケーションに困る場面もあった。

目標に対する評価

- ・インタビューを行うには自分の英語力が不足していた。行動の観察での研究は十分できたと思うが、やはりインタビューによりもっと確証のあるよい結果となったと思う。
- ・名刺は、帰ってきてから数えたら70枚くらい渡していたことになる。そんなに渡したつもりはなく驚いた。いつも思うが、名刺はどんなときでもあった方がよい。住所やメールアドレスを何度も書く必要がなく時間短縮になる。

ムートで印象に残ったこと

- ①プレムート・アコモデーション(オーストラリアのキャンプ)

タスマニアのスカウト所有のキャンプ地で宿泊した。キャンプ場にはコテージがあり、みんなが集まれるリビングルームがある。台所



には炊具、食器、冷蔵庫、オーブン、電子レンジ、電気コンロ、換気扇、水道が完備している。プレムートは自炊だが、オーストラリアのローバーは、冷凍食品をレンジでチンして終わり。日本とはずいぶん違う。

②オーストラリアのスカウトの顔見知り度
ムートにくる前から州を越えてお互いを知っている様子だった。会場でも「久しぶり! 元気にした? ○○はくるの?」という声がいろんなところから聞



こえた。それでも対抗ゲームなどを見てみると州による結束は強いようだ。また、日本のローバーとはシステムが違い、オーストラリア連盟と州の連盟しか区分がなく、あまり分け隔てなく活動しているようだ。普段から週末に集まったりして、キャンプやパーティーをしているようだ。ローバー活動として何してるの? と聞いたところ「町の清掃、老人施設や障害者の家でボランティア活動をしたり...でもローバー活動はもっと楽しく、もっと遊べ! って言ってやらない人もいるけど(笑)」という答えが返ってきた。

③初めてのサーフィン



選んだエクスペディションの申し込みが遅かったとかで、定員オーバー。おかげで私には縁がなさそうなサーフィンに挑戦できた。もっともボードに軽く立てた程度で一度も成功しなかった。

④MISS & MR. SUN & SURF

これは、ミス&ミスターコンテストなのだが、なんと女装・男装コンテストだった。リーダーがカバンいっぱいには何か用意していて、それがコンテスト用だったとは! みんなそれに似合っていて、ハイヒールは小さくて足を半分つまこんでいる状態だったり、胸は水風船。みんな恥ずかしがらずに個性あふれて堂々と、日本では絶対見られそうにない面白いコンテストだった。

⑤ムート・バー

なぜ、ムート中にお酒が飲めるのか? 日本のムー



トもそうだが、スカウトが集まるキャンプでは普通お酒は飲めないと思う。ここでは場所を限定して、それ以外は禁止としたほうがよいと判断されているのだろう。

⑥開・閉会式

すごくラフな雰囲気。どこに誰が座るといようなことはない。式も全然形にこだわらず、舞台はトレーラーだった。司会者が冗談をいって、観客側が応えてさらに笑ったり、これが彼らのスタイルなのだろう。



⑦ムート・フル

みんなこれに感染していた。Flie: 風邪である。会場は思った以上に寒く、私は夏用の寝袋をもっていったが、朝晩は死にそうに寒かった。私も感染。最終日に寝込んでしまった。

〈改善すべき点など〉旅行自体をプロジェクトに

旅行計画を立てるのも旅行の一部だと思う。参加者と日本連盟が話し合って決めることだと思う。決められたプログラムに乗っかるだけではローバー活動とはいえない。旅行自体をプロジェクトとして計画したほうがいいものができる。

また、派遣によって東京に面接にいたり、リーダーがついたりつかなかったり、東京発着で日本連盟まで行かないといけなかったりと、いろいろばらばらなものも統一して欲しい。それから、面接は県連盟どまりでよいのでは。東京まで面接に行く時間と費用ももったいない。県連盟が派遣適格者かどうか判断できるはずだと思う。

ローバーリングの個人活動の面を考えると、個々が目的・目標を設定するべきで、出発前の全体的な目的・目標は不要ではないかと思う。これは、全員が集まって東京発着ということにもつながることで、関東は成田、関西は関西発着でよく、全員がまとまるといふ必要はないように思う。

平成17年秋の全国交通安全運動

本運動は、広く国民に交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けるとともに、国民自身による道路交通環境の改善に向けた取り組みを推進することにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的とする。

期間:9月21日(水)～30日(金)

主催:内閣府、警察庁他7省庁19団体

協賛:財団法人ボイスカウト日本連盟他145団体
運動重点:秋の交通安全運動では、急激に進展する高齢社会における高齢者を取り巻く現下の厳しい交通事故情勢に的確に対処するため、「高齢者の交通事故防止」を運動の基本とするほか、次の重点を定める。

(1)夕暮れ時の歩行中と自転車乗用中の交通事故防止

(2)シートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

全国都道府県連盟めぐり

ボーイスカウト静岡県連盟

■事務局の場所

日本の真ん中静岡県、そのまた真ん中の静岡市葵区田町、JR静岡駅や県庁から車で10数分の閑静な住宅地の中にある静岡県青少年会館の一室が、私たち静岡県連盟の事務局です。

また、徳川家康ゆかりの久能山東照宮、羽衣の松で知られる三保の松原、特別史跡の登呂遺跡などもすぐ近くにあります。静岡においでの際はご案内しましょう。

■頑張っていること

県連内15地区155このスカウティングを支えるため、藤田・杉山の事務員が連日職務に勤め、県連組織の各責任者は足繁く事務局通いの近年です。

特に、「中途退団の対策」に力点を置き、団担当コミッショナーの特別研修会や、県連内を3ブロックに分けての団委員長セミナーなどを開催し、団の活性化に向けて頑張っています。

■もうひとつ頑張っていること

第15回日本ジャンボリーが我が県連内富士宮市の富士山麓朝霧高原で開催されることが決まりました。

もう一つ、第22回世界ジャンボリーの我が国開催に向けて、精力的に誘致活動をしています。つい先日イギリスで開催された「ヨーロッパジャンボリー2005」に、県議会・県行政・県連役員が出向きプロモーションを行いました。

さらに、開催国が決定される9月の世界スカウト会議（ジュニア）には、日連・県議会・県行政・富士宮市関係者と我が県連10人が加わる70人規模の大プロモーション団が、誘致の熱意を示すべく渡航することになっています。



■事務局所在地など

〒420-0068
静岡県静岡市葵区田町1-70-1
(静岡県青少年会館内)
TEL 054-255-6185
FAX 054-255-6186
E-mail bs-shizuoka@mail.wbs.ne.jp

『スカウティング』の定期購読をされていて住所変更された方は、お手数ですが下記に記入して、FAXまたは切り取ってハガキに貼るなどしてご連絡ください。

※点線で切り取って、ご使用ください。

「月刊スカウティング」定期購読者用 住所変更届

(フリガナ)			
(氏名)			
(所属)	連盟	第	団 (役務)
(新住所)			
(新電話番号)			
(登録番号)			

投稿お待ちしております

本誌では読者のみなさまからの投稿を常時受け付けています。投稿が掲載された方には、掲載誌と記念のキーホルダーをお送りしています。投稿は、文字数400字・写真3枚を目安にしてください。新聞掲載記事は、新聞名・掲載日を明記してください。なお、お送りいただいた写真や新聞記事は原則として返却しませんのでご了承ください。

お送りいただいた投稿は、抜粋しての使用や一部を編集させていただく場合があります。また掲載できない場合もあります。予めご了承ください。

たくさんの投稿をお待ちしています。

〔宛先〕

〒181-0015 東京都三鷹市大沢4-11-10
財団法人ボーイスカウト日本連盟
広報チーム スカウティング投稿係
(Tel) 0422-31-5163 (Fax) 0422-31-5162
(E-mail) pr@scout.or.jp



SCOUTING

スカウティング

2005年 9月号

No.628

CONTENTS

追悼 故 渡邊 昭 前総長	P.2~7
第22回スカウトジャンボリー開催国 間もなく投票!	P.8~9
ステップアップ100運動 Q&A集	P.10~11
お帰りをさい 野口宇宙飛行士	P.12
原点をたどるシリーズ ウッドクラフトとは	P.13
14NJ事前訓練シリーズ 珠洲への道①	P.14
信仰心を育むために 菩薩行とスカウト	P.15
スカウトムート2005開催!	P.16
おしらせ・読者のページ	P.17~19
スカウトショップニュース	P.21
ボーイスカウト環日本海大会開催	P.22~23

発行所 財団法人ボーイスカウト日本連盟
編集責任者 事務局長 若山裕司

住所 〒181-0015 東京都三鷹市大沢4-11-10
TEL 0422-31-5161
FAX 0422-31-5162
URL <http://www.scout.or.jp/>
E-mail pr@scout.or.jp

■◎財団法人ボーイスカウト日本連盟／写真、イラスト、記事のコピー・複製・転載を希望される場合は、日本連盟広報グループまでご連絡ください。

■バックナンバーをご希望の場合は、日本連盟 広報グループまでご連絡ください。

■本誌は再生紙を使用しています。

SCOUT SHOP NEWS

NEW



ナタ

3,500円(税込) (名入れ代込み) 品番81453

■刃体(刃の長さ)15cm、全長約30cm、木製サヤ付き
柄の部分にレーザーによるスカウト章および名入れ
名入れ例: 団名、備品番号、購入年月あるいは氏名(漢字、ローマ字可)

NEW



ハンドアックス

3,500円(税込) (名入れ代込み) 品番81457

■刃体(刃の長さ)10cm、全長約32.5cm、革製サヤ付き
柄の部分にレーザーによるスカウト章および名入れ(漢字、ローマ字可)

14NJ記念品

NEW



14NJポロシャツ2 ネイビー 各1,800円(税込)

■素材:本体(綿65%、ポリエステル35%) リブ(ポリエステル65%、綿35%)

サイズ	S	M	L	LL
品番	70677	70679	70681	70683
身丈	67	71	75	77
身幅	48	51	54	57
袖丈	21	22	23	24

単位:cm



14NJチーフリング1 大会マーク

350円(税込) 品番70369

■銀イブシ φ3.8cm



14NJチーフリング2 大会マーク

350円(税込) 品番70371

■銅ブロンズ φ3.8cm



14NJキーホルダー1 大会マーク

350円(税込) 品番70447

■銀イブシ φ3.8cm



14NJキーホルダー2 大会マーク

350円(税込) 品番70449

■銅ブロンズ φ3.8cm

スカウトカレンダー2006

年間行事シール付 —68406 630円(本体価格¥600)

予約販売中

- 予約申込期間:10月15日まで
- メルット期間:9月30日まで(日本連盟必着)
- メルット期間中に50部以上まとめてご予約いただくと、名入れ印刷いたします。
- 50部以上のご注文は10部単位でお願いいたします。

仕様:A4判変型 月別見開き(2005年版と同じ)



写真は2005年版カレンダーです。

■ご利用にあたってのお願い

- ご注文はBSカード専用の注文書がありますので、ご連絡いただければ送付いたします。
- 日本連盟のインターネットホームページからダウンロードできます(http://www.scout.or.jp/j/info/download/download_etc.html)。
- お支払いにつきましては、ボーイスカウトカードおよび代金引換(代引)のみの取り扱いとさせていただきます。
- ファクシミリ【0422-31-5169 スカウト用品専用】でご注文をお受けいたします。

- カードは計画的にご利用ください。
- お求めは県連盟・取扱協力店まで。またボーイスカウトカードをお持ちの方は日本連盟でもお求めいただけます。

*スカウトカタログ2005-2006等の情報はインターネットでもご覧になれます。

URL: <http://www.scout.or.jp/j/info/supply/catalog.html>



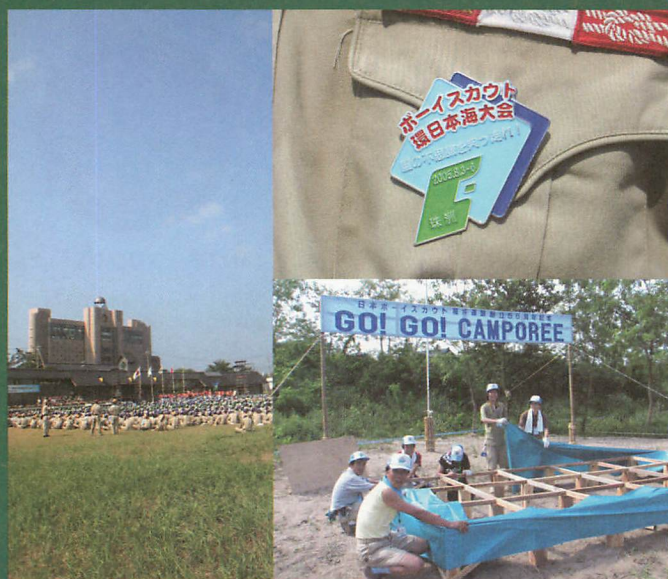
※当カードは、オリコ・UC・VISA取扱店や、海外のVISA取扱店でもご利用になれます。

ボーイスカウト環日本海大会開催

来年の14NJ会場に、2,600人が集結。

8月3日(水)～6日(土)の4日間、石川県珠洲市蛸島町「りふれっしゅ村 鉢ヶ崎」において、「ボーイスカウト環日本海大会」が開催されました。この会場はご存知来年の「第14回日本ジャンボリー」開催予定地です。地元石川県連盟のほか新潟、富山、福井、長野、岐阜、静岡の各県連盟およびガールスカウト石川県支部、そして韓国、台湾からも参加者を得て、およそ2,600人が会場に集いました(このうち、福井、長野、岐阜はそれぞれ同大会に併せ県キャンボリーを併催)。

第1日(8月3日)は設営に続いて夕刻より開会式。第2日(4日)は日中主に場内プログラム、夕方大集会。第3日(5日)は主に場外プログラムへ出かけ、第4日(6日)午前中に閉会式、という大会日程。期間中は当地90年振りという猛暑もありましたが、好天に恵まれた眩しい日差しの中の4日間でした。



ボーイスカウト環日本海大会

テーマ: 風の不思議を突っ走れ! ~Scouts Wave 100~

日時: 平成17年8月3日(水)～6日(土) 3泊4日

場所: 石川県珠洲市蛸島町 りふれっしゅ村 鉢ヶ崎

参加: ボーイスカウト石川、新潟、富山、福井、長野、岐阜、静岡の各県連盟およびガールスカウト石川県支部、平成17年度日韓スカウトフォーラム韓国派遣隊第1隊、韓国ソウル南部連盟72団、同58団、韓国スカウト全北連盟、中国童子軍總會から、およそ2,600人。

石川県連盟のホームページに大会の写真満載のサイトがあります。ぜひご覧ください。

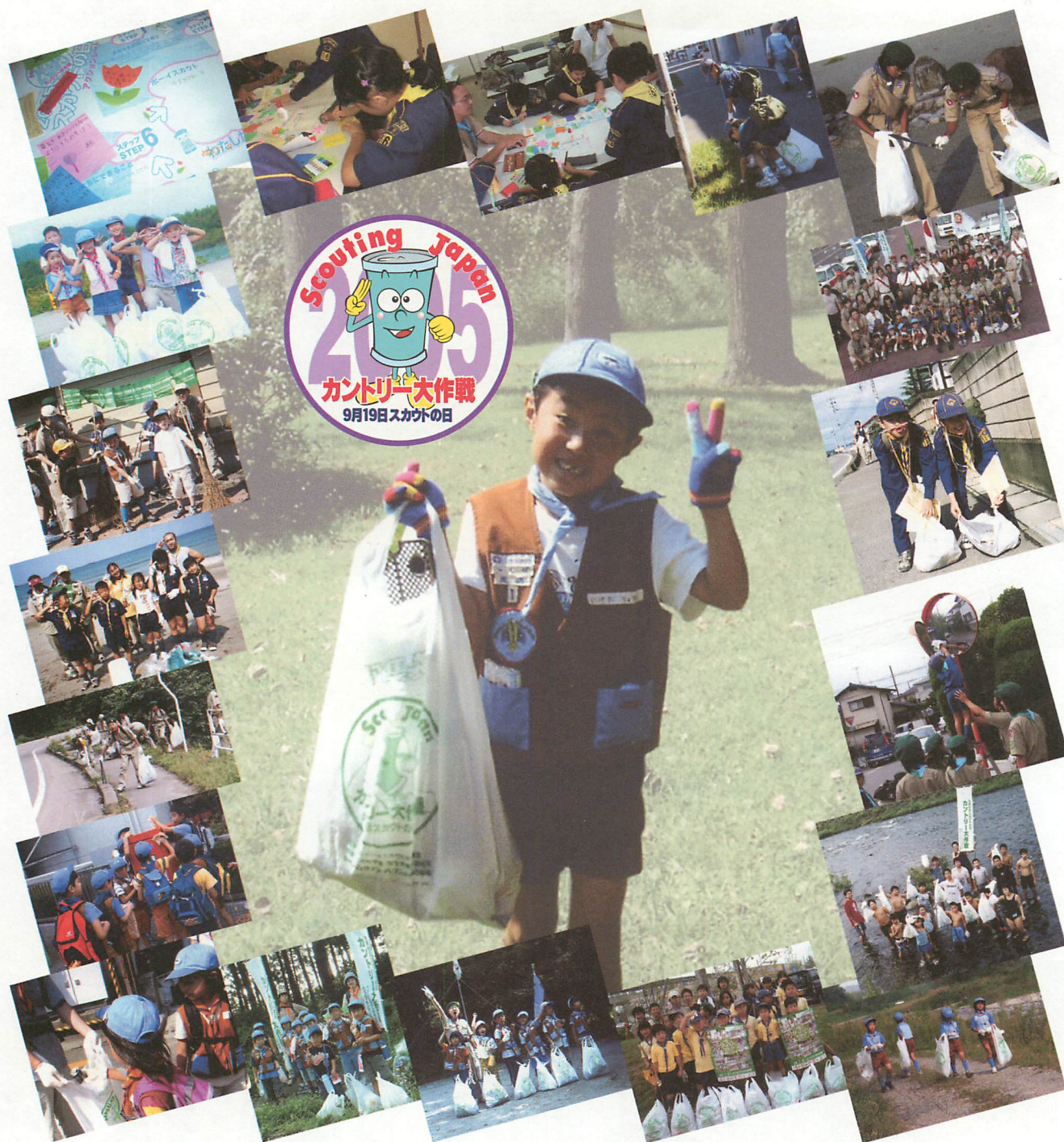
<http://www.scout-ishikawa.jp/>





この頁で紹介できたのは、数多く設けられた大会プログラムのごく一部ですが、編集部が特に注目取材したのはサイト生活。来年の14NJでも用いられる「薪」を燃料とする大会の炊事について、今回の環日本海大会でも様々な工夫が見られました。14頁で詳しく紹介しますので、併せてご覧ください。





今年もやるぞ！ スカウトの日

平成17年度「スカウトの日」

平成17年9月19日(月) 祝日=敬老の日

- ☐ 主 催 財団法人ボーイスカウト日本連盟
- ☐ 後 援 文部科学省・厚生労働省・環境省(予定)
- ☐ 協 賛 セブン-イレブンみどりの基金
- ☐ テー マ スカウトカントリー大作戦 ―「身の回りの環境を見直そう!」―

我が国(カントリー)に心豊かな社会を作るために、スカウトが空缶回収(缶トリ)をはじめとする様々な活動を行い、地域社会に貢献することを期待してこのテーマを設定しました。また、今年は地球温暖化防止を目指して先進国の温室効果ガス排出削減の数値目標を定めた「京都議定書」が発効した年でもあることから、一人ひとりが身の回りの環境や生活を見直し、省エネルギーと省資源のために身近にできる活動を展開して社会へアピールする場とします。さらに、今年は活動資料として花の種を配布し、より美しい街づくりのための環境美化活動にも取り組むこととします。